


知財業務のAI選定ガイド：Manus vs Perplexity vs Claude — 業務に合わせた「最強の布陣」

Claude Cowork (Anthropic): 文書中心の「知財の主戦力」

- 長文読解（200K+トークン）とWordアドインに強く、特許明細書の要約や要約や請求項のドラフト、契約レビューにおいて圧倒的なUIとガバナンスを誇ります。




Perplexity Computer: 根拠を重視する「探索のスペシャリスト」

- 検索ネイティブ設計で、Webと社内ファイルを横断した「引用付き」の回答が強み。先行技術調査や類似商標の洗い出しで事故が起きにくい設計です。



Manus (Manus AI): 自動化を推進する「自律型エージェント」

- 複数アプリを横断するワークフロー（MCP連携）に強みがありますが、知財業務に必要な引用追跡やセキュリティの公開情報がまだ不足しています。



知財ユースケース別の推奨マトリクス

 <p>先行技術調査・要約： Perplexityが第一候補</p> <p>検索の網羅性とインライン引用により、視認の確認が容易。次点でClaude Researchが適します。</p>	 <p>特許明細書・意見書ドラフト： Claudeが第一候補</p> <p>文体翻読や長文の文脈保持能力が高く、特にWord上での追跡変更やセクション引用ができる点を実機に通しています。</p>	 <p>契約条項レビュー： Claudeが圧倒的優位</p> <p>Claude for Wordはリーガルレビュー用途を明示しており、修正案の提示や変更意図の論理的説明に優れています。</p>	 <p>類似商標検索支援： PerplexityとManus</p> <p>Web情報や公報の構図比較はPerplexityが強く、ブラウザ操作の自動化による視察はManusが補助的に向いています。</p>
--	--	--	--

推奨アーキテクチャ：知財部門の「最強の布陣」



- Step 1: 文書基盤としてのClaude導入**
 特許書體的、ドラフト、契約レビューをClaude Team/Enterpriseに集約し、社内ナレッジ [Projects] を活用します。
- Step 2: 探索基盤としてのPerplexity併用**
 先行技術調査や類似比較の起点としてPerplexityを使い、提議付のレポートを作成します。
- Step 3: 周辺自動化としてのManus限定導入**
 非特許情報の収集や、多アプリにまたがる定型作業の自動化にピンポイントでManusを活用します。

セキュリティとガバナンスの比較

 <p>Claude Enterprise : 最も厚い企業統制</p> <p>監査ログ、Compliance API、IP耐強など、法務・知財部門が総括情報を扱うための準備が最も整っています。</p>	 <p>Perplexity : 隔離サンドボックスと高プライバシー</p> <p>Computer機能は隔離環境で動作し、ファイル連携も「コピーせず引用のみの視察」する高プライバシーモードを選択可能です。</p>	 <p>注意点：周辺機能の制約</p> <p>Claude CoworkやWordアドイン自俾は、現時点で一部の監査ログやコンプライアンスAPIの対象外であるため、親戚機案件での運用には注意が必要です。</p>
--	---	---

TCO（総保有コスト）予測

構成	小規模チーム (3~5名)	大規模チーム (20~50名)	コストの特徴
Claude Team	\$100~125/月	\$400~1,250/月	予算の予見性が高く、導入しやすい
Perplexity Enterprise	\$200/月	\$800~2,000/月	面議金中心で従量に明後な料金体系
Manus Team	\$100/月~	\$400~1,000/月~	クレジット制のため、使用量で変動しやすい